

信州大学 教育学部 同窓会報

信州大学教育学部同窓会報
【第27号】

発行人 中澤 寛
事務局 長野市西長野6ノロ
信州大学教育学部内
TEL・FAX (026)238-4370

信州大学「校友会」への参加について

同窓会長 中澤 寛



我が「信州大学教育学部同窓会」は「信州大学同窓会連合会」に参加しています。信州大学を構成する9の学部(旧文学部を含む)と1の学科(医学部保健学科)の同窓会が連合し、全学の旗を提携したり全国的に成果を挙げた学生を顕彰したりする等の活動をしています。

この連合会に対して、山沢学長など信州大学から提案があり、「信州大学校友会」を組織する方向で研究・調査が行われ、本年度末から運営を始める方向で計画が進んでいます。この提案は数年前から為されていますが、国立大学法人としての基盤を強固にしたいという強い願いが底に流れています。「生き残りを図る」という言葉さえ聞かれるほどです。

校友会の構成員は、同窓生などの他、現役の学生や教職員も含まれます。また、各研究室の同窓会や学生のサークルなど、信州大学に関わるすべてを包み込むうとしています。具体的な活動内容は、現在の同窓会が行っている内容に近いのですが、校友会と同時に設置される「知の森基金」では、学生の奨学制度等も盛り込むなどして、大学の魅力を高めたいと願っているようにです。

新しくなった北校舎

平成24年度に人文美術校舎(N館)と講義棟の耐震改修工事が実施されました。外観が純白の美しいフォルムに一新されるとともに、設備面も全面的に改修され、快適な空間に生まれ変わりました。

設備に関する改修のポイントには次の通りです。
○人文美術校舎と講義棟の南側に「憩いのスペース」が設置されました

南側が整備され、芝生と装飾ブロックを敷き詰めベンチが複数設置されました。

この「信州大学校友会」へ「信州大学教育学部同窓会」が参加するか否かについて、この夏の総会で審議する方向で準備を進めています。校友会は緩やかな連合組織であり、これまでの同窓会活動は継続されることが約束されています。

もとより、信州大学が元気になり更に発展することとは我々の望みでもありますので、基本的には参加する方向にしたいと思いますが、同窓会員諸氏のご意見を最大限に生かせるようにしたいと考えています。総会へご参加いただくと共に、多くのご意見をお寄せいただきたく、お願いいたします。

○講義室の利便性が向上しました

講義室N101、N201、N301の黒板が西側から北側に移動され、講義室の後ろから出入りできるようにになりました。また、固定机が可動機に変わり、グループワークなどの学習形態に柔軟に対応できるようにになりました。

○人文美術校舎2階にリフレッシュスペースが設置されました

人文美術校舎中央の階段を2階にあがったところに、学生や職員が自由に使えるスペースが設置されました。ここには給湯設備がついており軽食等をとることもできるようになっています。

同窓会の皆様、新校舎・講義棟に是非足をお運びください。なお、平成25年度には東校舎(E館)の耐震改修が予定されています。



文責 北校舎耐震改修検討委員長 宮崎樹夫

第二十五回 同窓会通常総会報告

平成二十四年度の同窓会通常総会は、八月十一日（土）、長野市岡田町の「ホテル信濃路」において、三十四名の出席を得て開催された。

中村直人幹事の進行のもと、小林洋子副会長の開会宣言、中澤 寛会長の開会挨拶の後、議長団に、馬場 敬、清水豊喜、議事録署名人に、小林和人、酒井英樹の各氏を選任、書記に宮澤昌道、伊藤冬樹の各氏を任命して議事へと移り、次の三議案について審議された。

● 第一号議案

平成二十三年事業報告書、歳入・歳出決算及び財産目録の承認について

総会資料に基づき久保信男事務局長より平成二十三年事業について、別府 桂幹事より平成二十三年歳入・歳出決算報告及び財産目録について説明がされた。また、三沢弘幸監事より適正に処理されているとの会計監査の結果が報告され、全員一致で承認された。

● 第二号議案

平成二十四年度事業計画書（案）及び歳入・歳出予算（案）の承認について

総会資料に基づき久保信男事務局長より平成二十四年度事業計画（案）について、別府 桂幹事より平成二十四年度歳入・歳出予算（案）についての説明があり、全員一致でこれを承認した。

〔平成二十四年度事業大綱〕

一、同窓会報（第二十六号）発行、会員、特別会員への郵送

二、研究助成 教育学部留学生後援会基金へ拠出、教育研究に対する補助、学生課外活動への補助

三、学部後援 学部・大学院充実に向けての援助、就職活動への支援



第25回同窓会通常総会 会長挨拶



記念講演会 日詰 正文氏

● 第三号議案

第十三期役員の一部交代について

中澤会長より、庶務幹事を附属長野小学校畔上一康氏から附属特別支援学校勝山幸則氏に交代した旨の報告があり、全員一致でこれを承認した。

議事終了後、臨席の平野吉直氏（教育学部長）より祝辞をいただいた。小林洋子副会長の閉会宣言で総会を終了した。

四、組織充実 支部組織の強化、地区代表を通して卒業生の会費未納者への納入依頼、退職校長未納者への納入依頼、新任校長・教頭未納者への納入依頼、在学生未納者への納入依頼

五、長期構想 「信州大学同窓会連合会」への協力、総会のあり方・基本財産の運用、法人化の研究と準備

平成23年度信州大学教育学部同窓会一般会計歳入歳出決算書

自 平成23年4月1日

至 平成24年3月31日

歳入合計額 6,290,670円也

歳出合計額 5,329,447円也

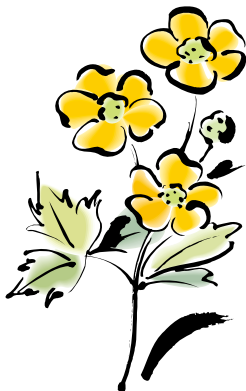
差引残額 961,223円也 翌年度へ繰越

〈歳入の部〉

項 目	予 算 額	決 算 額	増・△減	備 考
1 前年度繰越金	1,170,018	1,170,018	0	
2 会 費	5,840,000	5,020,000	△ 820,000	251名入金
3 雑 収 入	10,000	100,652	90,652	寄付・利子
歳 入 合 計	7,020,018	6,290,670	△ 729,348	

〈歳出の部〉

項 目	予 算 額	決 算 額	増・△減	備 考
1 会 議 費	580,000	430,484	△ 149,516	総会・役員会等
2 事 業 費	1,200,000	1,032,911	△ 167,089	会報・学部後援等
3 事 務 費	2,020,000	1,858,172	△ 161,828	会報発送・印刷等
4 事 務 委 託 費	1,806,000	1,806,000	0	雇用費等
5 雑 費	150,000	201,880	51,880	連合会会費・謝恩会御祝儀等
6 予 備 費	1,264,018	0	△ 1,264,018	
歳 出 合 計	7,020,018	5,329,447	△ 1,690,571	



ご挨拶

教育学部長 平野 吉直



全国の国立教員養成大学・学部は、ここ数年、大きな改革が求められております。昨年度の会報でお伝えしたとおり、信州大学教育学部におきましても、昨年度から十三年ぶりの学部改組を実施し、新たな一歩を踏み出しました。そして、この学部改組の成果を待たずして、すぐに教職大学院を視野に入れた教育学研究科の改組の検討にとりかかろうとしています。

教職大学院に関する国の動向については、昨年八月に中央教育審議会から、「教職生活の全体を通じて教員の資質能力の総合的な向上方策について」と題する答申がされました。この答申では、第一に、教員養成改革として、「教員養成を修士レベル化して高度専門職業人として位置づける」とし、教員養成を四年プラス一年あるいは二年とする「修士レベル化」を打ち出しました。そして第二に、修士レベル化と関連させ、教員免許制度の改革を打ち出しました。具体的には、いずれも仮称ですが、学部レベル・すなわち学士課程修了レベルの「基礎免許状」、修士レベルの課程での学修による「一般免許状」、さらには、特定分野に関し、実践の積み重ねによるさらなる探求により、高い専門性を身に付けたことを証明する「専門免許状」の創設です。現在、この答申を踏まえ、詳細について議論するワーキンググループが中央教育審議会のもとに設置され、教員養成に関する新たな枠組みを検討しています。

これらの方向性が固まれば、免許法的大幅な改訂が示され、教員養成・教員採用・教員研修を含め、教員養成のあり方等に大きな変革が求められること

は確実です。本学部におきましても、国の進める教員養成改革の状況を見つめながら、長野県教育委員会との連携・協力をこれまで以上に深め、教職大学院の設置のための検討を進めていく所存です。

こうした改革の流れの中で、昨年度より「目指せ！教員採用率・日本一プロジェクト」という取り組みを開始しました。本学部は、全国にある国立教員養成系大学・学部の中で、常に教員採用率はトップクラスにあります。国立教員養成系大学・学部の存在意義が、国レベルで問題視されている中で、確かな力を持った教員を養成し、教員への就職率をこれまでに以上に向上させることは、信州大学教育学部の存在意義を高め、より優秀な受験生の確保にもつながる極めて重要な施策であると認識しております。同窓会からのご支援を有効に活用させていただき、教員採用前の模擬試験、講演会等を手厚く実施していきます。

大きな改革、存在意義の再考を求められています。質の高い学校教員をはじめ教育の専門職を育成するという学部の使命は何ら変わりません。これまでに、数多くの優秀な指導者を養成していく努力を日々怠らないようにしていきます。

同窓会員の皆様には、日頃から信州大学教育学部の運営と学生の勉学に対して、多大なご理解とご支援をいただいております。特に、教員採用に向けての模擬試験の実施などに多大なご協力をいただいております。教育学部教職員を代表して、心から感謝申し上げますとともに、今後ともご支援を賜りますようお願いいたします。

学部の新転任・転退職教員の紹介

【平成二十四年度～平成二十五年度新転任教員】

友田 義行 先生 (言語教育講座)
 松本 康 先生 (社会科学教育講座)
 松澤 泰道 先生 (数学教育講座)
 大島 賢一 先生 (美術教育講座)
 篠崎 正典 先生 (社会科学教育講座)
 藤井 善章 先生 (教育科学講座)

【平成二十四年度転退職教員】

熊谷 陽一 先生 (社会科学教育講座)
 昭和六十一年三月一日着任、定年退職
 大原 明美 先生 (家庭科教育講座)
 平成二十一年四月一日着任、退職
 渡辺 隆一 先生 (スポーツ科学教育講座)
 昭和五十二年四月一日着任、定年退職
 川島 一夫 先生 (教育科学講座)
 昭和五十五年十月一日着任、定年退職



特集

20周年を迎えた「信大YOU遊」

文部科学省のフレンドシップ事業のモデルとなった「信大YOU遊サタデー」は、平成6年度(1994)に誕生しました。その後、「広場(プラザ)」(平成13年度(2001))、「世間(ワールド)」(平成15年度(2003))、そして、「未来(CHANCE)」(平成24年度(2012))へと進展し20年目を迎えてました。この活動の大きな特徴は、授業科目としてではなく、学生の主体的な参画のもと地域住民や子どもたちとの直接的なふれあいをモットーとしていることであり、信州大学教育学部の特色ある取組の一つとなっています。今号では、この20年間で3000名を超える多くの同窓生が関わってきた「信大YOU遊」の活動について、同窓生の手記を特集記事として取り上げます。



平成6年6月6日「無」からのスタート

山口 直行(数学・YOU遊第1期)



当時、第3学年次に附属小中学校で行われた6週間の教育実習としても充実していました。指導案や教材作りに必死になって取り組み、子どもたちと共に授業を創りあげることができたあの喜びや感動は一生忘れることはないでしょう。

そのころ教育現場に目を向けてみると、課題が山積していました。いじめ問題がテレビ、新聞で頻繁に取り上げられました。長野県では不登校者数が全国で上位に位置していました。高校では中途退学者がなかなか減らない状態です。そうしたなか、学校は五日制時代を迎えました。休みになる土曜日に子どもたちを受け入れる場も必要としていました。

こうした課題を解決していくためには、確かな実践的指導力を身につけていく必要があります。しかしながら、教育学部で学ぶ4年間(120週)での教育実践の場は、6週間の教育実習だけです。これでは、実践的指導力を高めるレベルには達しません。

教育実践の場がなければ、学生の手でそうした場を創ろう。しかも、それが地域社会への貢献にもつながるのであれば言うことはありません。そこで始まったのが「信大YOU遊サタデー」です。

平成6年6月6日に第1回目の実行委員会を立ち上げました。「6」並びのまに「無」からのスタートです。どれだけの講座を開いたらいいのか。学生スタッフは何人必要なのか。子どもたちは集まるのか。安全面への配慮は…。不安はたくさんありましたが、それよりも何もないところから新たな場を創りだしていく喜びを感じながら活動を進めていきました。そしていよいよ当日。私の講座「けん玉で遊ぼう」には、2名の子どもが来てくれました。

「信大YOU遊」地域・子どもたちと歩んだ20年

角田 正和(社会・YOU遊第2期)



私は第2期YOU遊サタデーに主として事務方のメンバーとして参加しました。IT技術の発達した現在とは異なり、当時は講座の案内や参加者募集は新聞社などのマスメディアに依頼する他

ありませんでした。また、参加者の受付や参加証の発送、活動後のアンケート調査の実施などは往復はがきなどの郵便で行っていました。そのため、事務方の作業量は半端なく多く、学部での講義が終わると教育実践センターに詰め、日々作業を夜遅くまでこなしていたことを今でもよく覚えています。活動二日目で認知度も低く、長野キャンパスでこのような催しが行われていることを知っている方も少ない中で、YOU遊の開催をみつけ、長野県内各地から労を惜しまず参加してくれた子どもたち、送り出してくれた保護者の方々、講座の開催に際して支援していただいた地域の方々など、我々YOU遊の活動を育み、支えてくださったサポーター層の厚さは「教育県長野」の風土あつてのものと改めて感じています。

この活動が二十年にわたり持続し、活動範囲を広げ発展したことは、立ち上げ当初の様々な困難を垣間見てきた者の一人として大変な喜びであり、ここまで受け継いでくれた後輩たちの教育にかける情熱が我々と同じベクトルを維持している事の何よりの証であるとお変心強く思っています。学校現場では団塊世代の大量退職を迎え、YOU遊初期のメンバーは現場で中堅教員となり、学校・学年のリーダーとして長野県内はもとより、全国各地で活躍していると聞いています。YOU遊で学び、育った若い先生方、今後は信州大学で学んだ同志として現場でタッグを組み、教育実践を積み重ね、共に研鑽を積んでいきたいと思います。二十周年は一つの通過点として、今後ともYOU遊が未来の教員志望学生の学びの場であり続けることを願っています。



「信大YOU遊」は実践的教師訓練プログラム

小林 則雄（地域スポーツ・YOU遊第8期）



私は、52歳で信大に入学し教師になった。その期間、わずか11年。その基礎を築いたのは「信大YOU遊」での活動だった。長いサラリーマン

生活の中で培った色々な体験、またボランティアで得た経験も、もちろんその素材としてあった。教職は、目の前の児童・生徒だけが対象ではない。その保護者やPTAを通じての地域までもが対象になる。YOU遊広場で、不登校児童を対象にした「興譲館」活動や心の教室相談員などを体験した。いずれも何もない所から、ただただ「なにかをやりたい」という気持ちでスタートしたプロジェクトだった。中年のおっさんからすれば、この位でいいんじゃないの？という気持ちもなくなかった。がしかし、若さとはすばらしい。時間より心の納得感の方が優先するのだ。延々と続く論議、また論議。会社ならとくに上司の決断と判断とで論議は打ち切られているはずなのに。夏のキャンプの下見に出かけた時、下見会場には、うつすらと雪が積もっていた。未経験ゆえの慎重さの表れである。活動の対象は子供達だけではない。一緒に参加する保護者やその場を提供する地域があるのだ。これは教育実習にはない、実践的な教育実習そのものである。失敗のほろ苦さも、成功の歓喜の涙もすべて吾の手の中にあるのだ。

毎年、未知との遭遇のわずか7年の教員生活。絶体絶命の危機的な状況もあった。また逆にお祭りのような歓喜に満ちた時もあった。振り返ってみたら、このYOU遊広場での体験が、私の教員生活のバックボーンになっていたことに気づかされた。実に得難い4年間の体験だった。改めて土井先生と林部さん

をはじめとする地域の皆様に御礼を申し上げます。

どうしてYOU遊の学生は涙を流すのか

寺坂 岡部 桂子（教育実践・YOU遊第8期）



東京出身の私が、信州大学に入学することを決めた決定打が、オープンキャンパスで見た、YOU遊のスタッフ募集の広告でした。そして、その後の学生生活には、いつもYOU遊がありました。農場、プレーパーク、全国フレンドシップ活動など楽しく活動し、多くの学びを得ることができました。

大学四年生の時に教育学部のグラウンドに作っていたプレーパークに埋めたタイムカプセルを、今年の三月、十年ぶりに発掘しました。当時の子ども達現在十五歳から二十五歳とその親、十二人が集まってくれました。あの頃私たちが頑張っていた活動は、参加者の彼らにとっても、良い思い出となるものだったのだと実感でき、大変嬉しかったです。



また、第一回YOUフェスの打ち上げでは、みんな涙を流しました。全国フレンドシップ活動の他大学の学生に、どうして信大生は涙を流すことができるのかと問われたことがあります。YOUフェスは、たった半日の活動だけでも、子ども達に喜んでもらおうと、真剣に考え、話し合い、ぶつかり合い、一か月以上の準備がありました。それが子どもたちの笑顔につながった喜びや、そこで得た仲間との絆が、感動の涙となったのです。この充実感は、全国の教員養成系の学生に自慢できるものでした。そして、私の教員生活の基盤にもなっています。

YOU遊の活動が今後も続いていき、YOU遊で育った後輩たちが全国の教員になり、一緒に切磋琢磨していいことを楽しみにしています。

土井進先生の後ろ姿

鈴木 亮子（生活科学・YOU遊第15期）



私は土井先生の後ろ姿に初めて出会って衝撃を受けた。それは、茂萱の農場に使う堆肥を作るために、生協の生ごみを一輪車で運搬しておられる姿であった。私はこういうことをしている大学教授がおられることを知って本当に驚いた。それから私は、大地と関わることにこんなに熱心で、誠実に学生に接してくださる土井先生のもとで学びたいと心から思い、「YOU遊世間」の活動に積極的に取り組んだ。また、卒業前の3月に青木村文化会館で開催された第9回「全国フレンドシップ活動」in信州にも参加した。

土井先生から学んだことは、周りにいる人が幸せになるためにはどうしたらいいのか、そして自分自身が幸せになるためにはどうしたらいいかということであった。また、志を高く持つことや言葉の持つ力の大きさなどたくさんを学んだ。学生のことを思っ、学生のために尽くす先生であった。

私は今、千葉県八街市立実住小学校の3年生を担任している。卒業生を2度送り出し、教員5年目になる。

学生時代に学んだ土地を離れても、空をしっかりと見上げて頑張ることができるのは、学生時代とともに学んだ「YOU遊」の友が全国各地にいるからだ。そして、土井先生が長野にいらっしゃるからである。学生が実体験を通して学べる「YOU遊世間」を支えてくださっている土井先生に本当に感謝している。



同窓会情報

教育学部同窓会・研究補助事業について

本号でも、平成十五年度より実施しております同窓会研究補助事業についてお知らせいたします。

本事業の主旨は、①日々の教育研究、教育実践を大切にし、自らの授業改善に努めること、②専門職としての教師自らの教育研究・教育実践を磨くこと、③教育の振興・改善についての情報を共有していくことに置かれています。対象者は教育学部同窓会（同窓会費納入者）で、応募者一律に一万円を補助しています。

応募希望者は所定の様式（「研究補助願及び研究概要」）にしたがって、同窓会事務局（〒380-8544 長野市西長野6-10）にお申し込み下さい。当該年度の十一月末日を応募締め切りとしています。応募規定などの詳細な内容は、同窓会ホームページをご覧ください。なお、お申し込みの際には必ず事務局までお問い合わせ下さい（研究補助は十名までとなっております）。受付可能かどうかの確認のためです。

平成二十四年度助成交付の研究テーマ

①戸塚 拓也（長野市立柳町中学校）

古典学習における言語活動のあり方

②清水 守（岡谷市立長地小学校）

コミュニケーション力を育成するための学習指導はどうあったらよいか

③花岡ひさ江（岡谷市立岡谷小学校）

「子どもたちと共に創る授業」をめざして
～自ら自分の言葉で表現する姿をもとめて～

④大上みどり（長野市立徳間小学校）

SOで始まったフロアーホッケーの理解と普及

⑤村澤 陽介（長野市立加茂小学校）

子どもたちが仲間と関わり合いながら、夢中になって取り組む体育授業づくり

～2年「なわとびあそび」を通して～

⑥伊東あゆみ（長野市立松ヶ丘小学校）

追求のエネルギーを持つて、筋道を立てて考え、友とかかわり合いながら数理を確かにしていく算数学習はどうあったらよいのか～思考を深める追求のあり方～

⑦小林 真樹（附属特別支援学校）

『ともに活動するよさを感じる姿』が現れる環境づくり

⑧宮尾 美輝（須坂市立豊洲小学校）

小学校低学年における投能力向上を目指した学習プログラムの検討

⑨井浦 徹（千曲市立東小学校）

小学校高学年のゴール型（ゲーム）教材開発とその検討

⑩林 尚之（岡谷市立小井川小学校）

算数的活動を活かした授業づくり
以上が、平成二十四年度における補助金交付者及び研究テーマに関する一覧です。これらを大いに参考にしていただき、積極的に応募していただきますよう、よろしくお願いいたします。

「かわり」を学習の中心に据えた体育授業づくり ～2年『なわとびあそび』を通して～

長野市立加茂小学校 村澤 陽介

加茂小学校では、一昨年度に全国学校体育研究大会、昨年度に教育課程研究協議会特別支援教育の授業公開校として、授業研究を行った。どちらの研究においても、子どもたちが、かわり合いながら、学習に夢中になって取り組む姿を目指して授業研究を行い、多くの成果を上げることができた。本研究では、それぞれの授業研究の成果を生かしながら、子どもたちがすすんで関わることでできる授業づくりをテーマにして授業実践を行った。単元は、「なわとびあそび」を行い、授業前半に短なわ、授業後半に長なわで色々な技にチャレンジしていく進め方で行った。

単元最初の授業において、長縄では「友だちとの協力が大切」であることを伝え、協力というのは、「みんなで声（アドバイス・応援）をかけあうこと」常に自分の

するべきこと（縄を回す・並ぶ・跳ぶ）を考え、動くことであるという具体的な行動を示した。また、課題を達成した際には、グループでハイタッチをしたり、抱き合ったりして喜び合うようにすることも具体的に伝え、達成感を仲間と味わうことができるようにした。

授業では、子どもたちが達成感を感じながら、意欲をもって取り組んでいけるように、「波」「くぐりぬけ」などの簡単な技から行うことにし、スモールステップを積み重ねていくようにした。また、授業のふりかえりの場面では、「縄の回し方」「跳び方」「並び方」の3つの場面では、どのような動きの工夫をすることができたかを、グループごと話し合う時間を設けた。単元序盤から、課題の技や回数をクリアした際に担任も一緒に喜ぶことで、子どもたち同士でも声を出しながら、喜び合う姿が見られるようになった。

単元中盤以降では、「かぶりなわ」の連続とびに挑戦した。子どもたち同士で声をかけ、縄に入るタイミングを明確にするために、クラスで縄を回す時のかけ声を統一した。単元後半になると、子どもたち同士で声を合わせてリズムを取ろうとする姿が見られるようになってきた。さらに、縄にひっかかってしまった子に対して、ただ「大丈夫」「つぎ頑張ろう」というだけでなく、「もつと縄の真ん中で跳んだ方がいいよ」や「高く両足で跳んだ方がいいよ」など具体的なアドバイスをする姿が見られるようになった。これは、単元序盤からそれぞれの場面での動き工夫について、グループで話し合ってきたものが、子どもたちの学びとして積み重なってきたのだと言えるだろう。単元最終日では、連続100回以上を目指そうという目標のもと授業を行い、子どもたち自身で、声を掛け合ったり、動きの工夫を生かしたりして、100回以上跳ぶことができた。成功した時は、自然と子どもたちが抱き合ったり、声を掛け合ったりして喜び合う姿が自然と見られた。

今年度も相変わらずのご支援、よろしくお願い申し上げます。

就 職 率(学 部)(進学者を除く)	89.069%
教員就職率(学 部)(進学者を除く)	66.397%
教員養成課程卒業者に対する教員就職率	62.5%

信州大学教育学部同窓会

第二十六回通常総会(通知)

日時

平成25年8月11日(日)
午前10時より

会場

長野市岡田町
「ホテル信濃路」

次第

1. 開会宣言
2. 会長挨拶
3. 議長団選任
4. 議事録署名人の選任
並びに書記の任命
5. 議事
第一号議案 校友会への参加について
第二号議案 平成24年度事業報告及び歳入・歳出決算報告について
第三号議案 平成25年度事業計画(案)及び歳入・歳出予算(案)の承認について
第四号議案 第14期役員
の改選について
6. 来賓紹介、代表挨拶
7. 閉会宣言

記念講演会: 12時より

講師/「信大YOU遊未来」
土井 進氏 他

祝賀懇親会: 13時より

記念講演のご案内 (一般公開)

信州教育の精髓と通底する

「信大YOU遊未来」の精神

— 信大生の主体的・自主的な地域貢献の授業外活動 —



土井 進 (教育科学講座)

「こんな授業、必修でなければ出たくありません。この授業は、かに教育実習をうまくやるかのノウハウを教え込むためのものですか? もっとしっかりした内容のある授業を充実させてくれ。今までの教育法などは一体何の役に立つんだ。矛盾だらけだぞ!」この痛烈な学生の訴えは、私の胸に突き刺さり寝ても離れなかった。この声に真摯に対応していく中から「信大YOU遊サタデー」(平成6年度(1994)が誕生した。その後、「広場(プラザ)」(平成13年度(2001)、「世間(ワールド)」(平成15年度(2003)、「そして、「未来(CHANCE)」(平成24年度(2012)へと脱皮に脱皮を重ねて20年目を迎えることができた。

20年間一貫して守っていることは、「この取組を絶

対に授業科目化しないでください」という学生たちの遺言である。「YOU遊」のモットーとして20年間頑なに守り抜いてきたことは、「やりたい学生が、やりたいことを、やりたいようにやる」という信念である。学生は、主体的・自主的に使命感と情熱に燃えて取り組んでいる。正副実行委員長や正副講座長などを務めた学生は500名を優に超え、スタッフとして参加した学生は3000名を超えている。

教育学部同窓会総会において、「YOU遊」20周年を記念する講演の機会を与えていただいたことに衷心より御礼申し上げる。全国から信州大学教育学部に学ぶ学生に脈打つ「YOU遊」精神は、信州教育の精髓とされる「深雪せる野路に小さき香の跡われこそ先に行かましものを」に通底していることを論じたいと思う。

- ①「YOU遊」体験によってどのような力が身についたか?
- ②「YOU遊」体験の中で最も楽しかったことは何か?
- ③現在どのような教育実践に取り組んでいるかについて次の6人がリレー講演する。

1. 山口直行(松本市立丸ノ内中学校・数学・YOU遊第1期)
2. 角田正和(岡山県倉敷市立西中学校・社会・YOU遊第2期)

事務局便り

○研究補助受付中

研究補助申請を四月より受け付けております。詳細は同窓会ホームページをご覧ください。また、本号の六ページ・同窓会情報の欄をご参照ください。昨年度の助成交付の研究テーマなどが掲載されております。

○住所変更をお忘れなく

転居の際には住所変更の届を事務局宛てにお願い致します。メールでも結構です。

○会費の二重払いについて

同窓会費の二重払いに注意してください。同窓会費は終身会費です。未納者には、後日、納入願いの書面が届きます。二重払いの場合にはお返ししますが、振り込み手数料等がかかりますので全額返金はできません。

事務局連絡先

電話 026-238-4370
月・水・金 9:30~16:30
HP <http://taaedu.shinshu-u.ac.jp>
E-mail kdousou@shinshu-u.ac.jp



3. 小林則雄(前長野市立南部小学校生涯スポーツ・YOU遊第8期)
 4. 寺坂桂子(千葉県柏市立立南小学校教育実践・YOU遊8期)
 5. 鈴木亮子(千葉県八街市立実住小学校・ライフプランニング・YOU遊第15期)
 6. 土井 進(教育科学講座)
- 記念講演終了後、「ホテル信濃路」において祝賀懇親会(会費四、〇〇〇円)を開催します。
こちらへも多数ご参加くださいますようご案内申し上げます。申し込みは同封の葉書で事務局までお願いいたします。